



- ・ 5月上旬移植のコシヒカリの成熟期は「平年より3～7日程度早い」です。
- ・ 刈り遅れないよう、計画的に準備しましょう。

1. 幼穂形成～登熟期間の気象

◇平均気温

- ・ 平年より高く推移しています。

◇日照時間

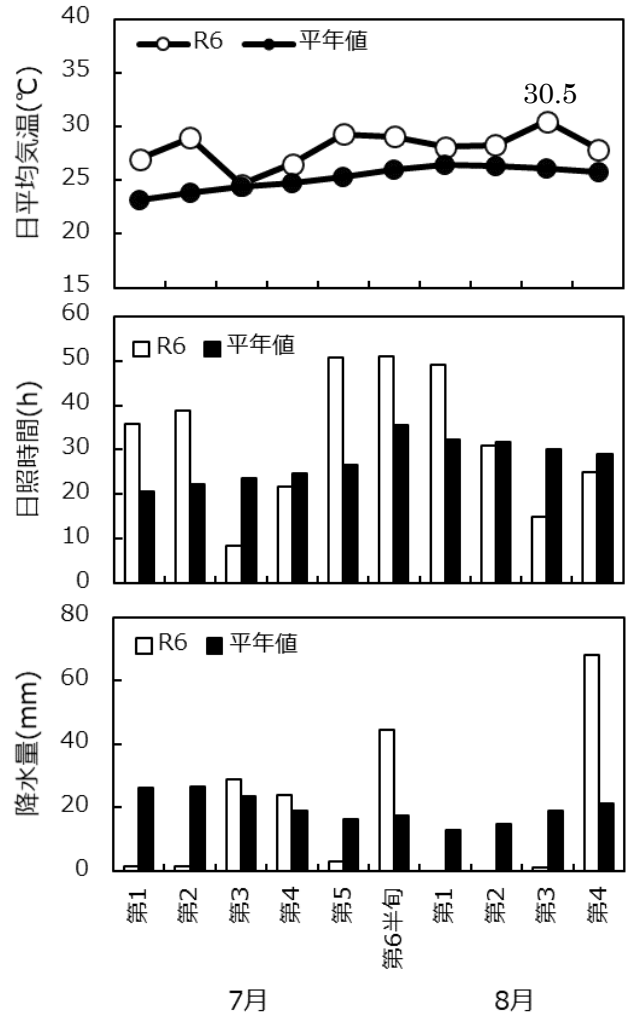
- ・ 時期ごとに差はありますが、合計値は平年より多い傾向です。

◇降水量

- ・ 7月下旬には、まとまった降雨がありました。
- ・ 8月前半は少なかったですが、16日、19日にはまとまった降雨がありました。

全体の傾向：高温・少雨

図1 平均気温・日照時間・降水量の推移
(2024年つくば市館野アメダスデータより)
(平年値は1991～2020年の平均値)

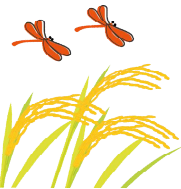


【農作業安全】 もうすぐ稲刈りが始まります。コンバインでの事故には十分注意しましょう！

- ①機械の点検やつまりの除去のときには、必ず、エンジンを停止！
- ②駆動部分への注油は、クラッチを切りましょう。
- ③（草むら、せまい道、坂道などでは）
使いなれた道でも、コンバインから降りて、道幅や路肩の状態を必ず確認しましょう。
- ④コンバインを動かすときは、周囲に人がいないことを確認！
- ⑤後退時には、後方を十分に確認しましょう。
- ⑥こどもなど、作業員以外の人を乗せて運転しないこと！



2. 管内の水稻の出穂状況と収穫適期（予測）について



今年の出穂期は、コシヒカリ・ふくまる SL とともに平年より早くなりました。

平均気温からの収穫適期の予測では、コシヒカリは平年より3～7日程度、収穫適期が早いと予測されます。さらに今年も昨年と同様に、登熟期間の気温が平年より高く、今後とも高いと予想されているため、収穫適期は予測値より早まる可能性がありますので、ご注意ください。

品種	調査地点		田植日	出穂期	収穫適期 (※予測値)
コシヒカリ (中生品種)	つくば市上菅間	R6	5/2	7/20	8/26～8/31
		平年値	5/1	7/25	9/3～9/7
	つくば市今鹿島	R6	5/3	7/21	8/27～9/1
		平年値	5/1	7/24	8/31～9/4
	つくばみらい市中島	R6	5/2	7/21	8/27～9/1
		平年値	5/1	7/25	9/1～9/5
ふくまる SL (早生品種)	龍ヶ崎市	R6	4/25	7/9	8/15～19

※収穫適期(予測値)は、8/12までの平均気温(R6)と8/13以降の平均気温(平年値)の積算気温から算出。

3. 今後の管理のポイント

1) 高品質米生産のために、適期収穫に努めましょう！

早刈り

→収量・千粒重・品質の低下（青米や死米の増加）

→食味の低下（タンパク質含有率が高くなる）

刈り遅れ

→品質の低下（玄米の光沢がなくなる、胴割粒や着色粒の増加）

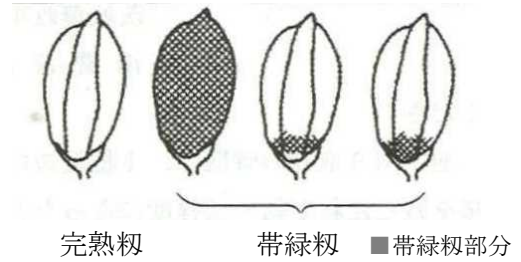
表1 品種ごとの収穫適期の目安

熟期	品種	収穫適期
早生	あきたこまち	出穂後 30～35 日、帯緑籾率 10%頃から約 5 日間。
	ふくまる SL	出穂後 38～40 日、帯緑籾率 6～15%頃。
中生	コシヒカリ	出穂後 35～40 日、帯緑籾率 10%頃から約 5 日間。
	にじのきらめき	コシヒカリより 4～5 日程度遅い。 出穂後約 43 日、帯緑籾率 10%頃。

注) 出穂後の気温によって、収穫適期の出穂後日数は前後します。

もみの下のほうは
まだ青いな～！

＜帯緑籾率から収穫適期を判定する方法＞
平均的な生育箇所の穂を5～6本まとめて
にぎってみましょう。うっすらと黄緑色を
したもみの割合（帯緑籾率）で判断します。



◆参考資料◆ 「山口正篤：あなたにもできる安心イネづくり，1993」

県作成の“水稻「コシヒカリ」適期収穫チャート”もご活用ください！（別添）

4. 雑草イネに注意！

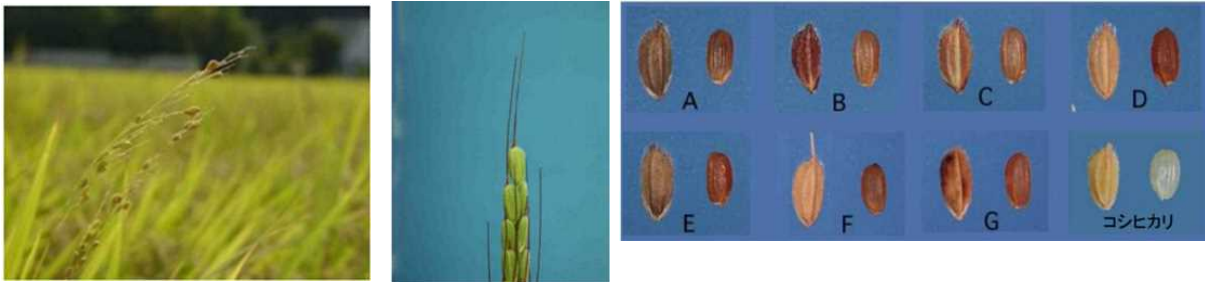
近年、県内各地で雑草イネの発生が確認されています。

雑草イネがまん延すると収穫物に混ざり、等級を下げる原因になります。また、一度増えてしまった雑草イネをなくすには、徹底的な防除を3～4年続けなければなりません。

早期発見と速やかな防除により、雑草イネによる被害を防ぎましょう。

雑草イネの特徴

- ・籾が落ちやすい（風が吹いたり、手で握ったりするだけで多くの籾が落ちる）
- ・出穂期や草丈が栽培品種と異なる（栽培品種と同じタイプもあります）
- ・芒や籾、玄米が着色している（着色していないタイプもあります）



↑草丈が高い、籾が落ちやすい ↑赤紫色などの芒がある ↑籾や玄米の形や色が異なる

写真は中央農業総合研究センター作成「雑草イネまん延防止マニュアル Ver.2」より引用

雑草イネを発見したら…

収穫前：①すぐに株ごと抜き取り、処分

②農業機械を介して拡散するため、発生ほ場の機械作業をなるべく最後に実施

収穫後：①耕うん前の有効薬剤による防除

②種子を土中に埋め込むため、深耕の実施

次作：①5月中旬以降の遅植え

②有効薬剤による体系防除

③手取り除草

以上の対策を組み合わせる必要がある。

5. イネ縞葉枯病の発病状況（速報）と今後の対策

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病で、管内でも発生がみられています。

今年のイネ縞葉枯病の発病状況（穂揃い期）は、守谷市・つくばみらい市では昨年と比べてやや多く、ほかの地域では昨年同等～少なくなっています。いずれの地点でも、発病株率は10%以下となっており、箱施用剤の使用により被害の拡大が抑制されている、または発生が少ないと考えられます。引き続き、地域の発生状況を把握しながら、次年度の対策も徹底しましょう。

今後、水稻の収穫が始まると、ヒコバエ（再生イネ、二番穂）や水田周辺のイネ科雑草は、ヒメトビウンカの生息・越冬場所になります。

県農業研究所の調査の結果では、水稻の収穫後の耕起時期は早い方が、水田畦畔のヒメトビウンカの越冬量が少ないことがわかっています。ヒコバエはできるだけ早く耕起し、水田周辺の雑草は除草しましょう。

調査地点		発病株率 (%)					発病莖率 (%)				
		R3	R4	R5	R6		R3	R4	R5	R6	
つくば市	今鹿島	3.0	1.7	3.3	3.0	↓	0.0	0.1	0.9	0.5	↓
守谷市	野木崎	4.0	6.7	5.6	9.7	↑	0.5	1.4	0.8	0.5	↓
つくばみらい市	中島	5.0	8.7	6.0	6.7	↑	0.0	0.6	0.7	0.7	→
取手市	上萱場	-	0.7	7.7	1.7	↓	-	0.3	1.1	0.0	↓
利根町	立崎	4.8	0.7	0.3	0.0	↓	0.5	0.0	0.0	0.0	→

調査方法：発病株率は、連続 50 株×6 反復（計 300 株）調査。

発病莖率は、10 株ごと 1 株×5 株×5 反復（計 25 株）調査。

発病の判定は、発病株率と同様。

調査はコシヒカリを対象に、穂揃い期以降（8/1, 8/6, 8/8）に実施しました。

いずれの調査地点も、ウンカ類を対象とした水稻育苗箱施用剤を散布しています。



*** イネ縞葉枯病防除マニュアル（茨城県版）もご確認ください。**

（茨城県農業総合センター農業研究所作成）

https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/noken/documents/r3_shimahagare_manual.pdf